

※※2016年11月改訂(第4版)
※ 2010年1月改訂

日本標準商品分類番号 872619-87273

承認番号 (61AM)1552
薬価収載 1986年3月
販売開始 1986年3月
再評価結果 1983年4月(歯科領域は1990年3月)

外用殺菌消毒剤

劇

日本薬局方

ホルマリン

ホルマリン「ケンエー」

火気注意

Formalin

500mL

ケンエー

健栄製薬株式会社

大阪市中央区伏見町2丁目5番8号
電話番号 06(6231)5626

※規制区分:劇薬

貯法:気密容器
遮光して室温保存
注意:「取扱上の注意」
の項参照

※※【禁忌(次の患者には使用しないこと)】

歯科領域の場合
本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

1mL中 日局ホルマリン 1mL含有。
[ホルムアルデヒド(CH₂O) 35.0~38.0%を含有。]
添加物としてメタノールを含有する。
無色澄明の液で、そのガスは粘膜を刺激する。
長く保存するとき、特に寒冷時に混濁することがある。

【効能・効果】 【用法・用量】

効能・効果	用法・用量
	使用対象により、通常、次のいずれかの方法を用いる。 ①ホルムアルデヒド1~5%溶液による浸漬、又は清拭を行い、2時間以上放置する。 ②ガス消毒法:気密容器中あるいは密閉環境内において、容積1m ³ に対しホルマリン15mL以上(ホルムアルデヒドとして6g以上)を水40mL以上とともに噴霧又は蒸発させ、7~24時間又はそれ以上放置する。 蒸発を速めるためには、ホルマリン15mL以上を希釈(5~10%)し加熱沸騰させる方法、ホルマリン15mL以上に対し水40mL以上及び過マンガン酸カリウム18~20gを加える方法などを用いる。
医療機器の消毒、手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒	
歯科領域における感染根管の消毒	原液にクレゾール等を加えて用いる。

※※【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- 人体に使用する場合は歯科領域にのみ使用すること。
- 皮膚、粘膜(眼、鼻、咽喉等)に刺激作用があるので皮膚、粘膜に付着しないようにすること。
液を取扱う場合にはゴム手袋等を装着すること。
なお、付着した場合には多量の水で洗い流すこと。
- 眼に入らぬよう眼鏡等の保護具をつけるなど、十分注意して取扱うこと。
誤って眼に入った場合には、直ちに多量の水で洗ったのち、専門医の処置を受けること。
- 蒸気は呼吸器等の粘膜に刺激作用があるので、眼鏡、マスク等の保護具をつけ、吸入又は接触しないよう注意すること。

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

※※(1)重大な副作用

歯科領域の場合

ショック、アナフィラキシー(頻度不明):ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、尊麻疹、そう痒、呼吸困難、血圧低下等の異常が認められた場合には、適切な処置を行うこと。

(2)その他の副作用

歯科領域の場合

歯根膜、根尖孔外に溢出した場合、歯根膜に過刺激が加わり歯根膜炎(頻度不明)を起こすことがある。

3. 適用上の注意

- 投与経路:外用にのみ使用すること。(歯科領域を除く)
- 使用時:消毒後、残留するホルムアルデヒドは適切な方法で除去すること。(例えば、水洗、アンモニア水の散布、蒸発等)

【取扱上の注意】

〈注意〉

- 規定濃度を下回らない新鮮な消毒剤を用いるとともに消毒時間を守ること。
- 被消毒体と消毒剤との接触を十分にすること。(例えば、液体等の付いた器具、油の付いた器具、重ねたままの衣類等はよくない。)
- 被消毒体の量、被消毒体による消毒剤の吸着等を考慮し消毒剤は適宜増減すること。
- 高温であるほど消毒効果が高まるので18℃以上に保つようにすること。(ガス消毒の場合は、同時に湿度も75%以上に保つこと。)
- 本剤により変質を来すもの(ある種の染色製品、革製品等)があるので注意すること。
- 深部まで消毒剤の到達し難いもののガス消毒には、真空装置を用いること。

〈配合変化〉

アンモニア、水酸化アルカリ、重金属、蛋白質、ヨウ素、易還元性物質は分解されるので配合しないこと。

〈その他〉

- 誤飲を避けるため、保管及び取扱いには十分注意すること。
- 廃棄の方法は毒物及び劇物取締法第15条の2に従うこと。

製造番号

使用期限

キャップ:PP
バックリ:PE,PP
ボトル:PE

〈調剤包装単位用コード〉



0111111101111

〈販売包装単位用コード〉



0111111101111

つぶして廃棄
しやすい
減容ボトル